

製品名: GluR-1 (リン酸化 Ser849) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04734**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | IHC, ICC/IF, ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | GRIA1 |
| 別名 | GRIA1; GLUH1; GLUR1; Glutamate receptor 1; GluR-1; AMPA-selective glutamate receptor 1; GluR-A; GluR-K1; Glutamate receptor ionotropic; AMPA 1; GluA1 |
| 遺伝子 ID | 2890.0 |
| SwissProt ID | P42261 |
| 免疫原 | 抗血清は、Ser849 のリン酸化部位周辺のヒト GluR1 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 816-865 |

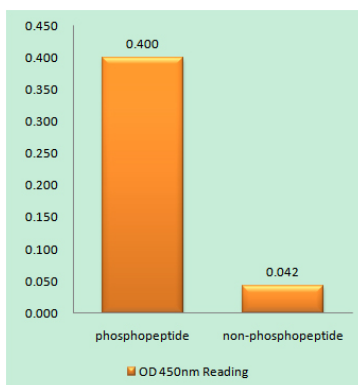
背景

グルタミン酸受容体は、哺乳類の脳において主要な興奮性神経伝達物質受容体であり、様々な正常な神経生理学的プロセスにおいて活性化されます。これらの受容体は、それぞれが膜貫通領域を有する複数のサブユニットからなるヘテロ多量体タンパク質複合体であり、リガンド依存性イオンチャンネルを形成するように配置されています。グルタミン酸受容体の分類は、異なる薬理的作動薬による活性化に基づいて行われます。この遺伝子は、 α -アミノ-3-ヒドロキシ-5-メチル-4-イソキサゾールプロピオン酸 (AMPA) 受容体ファミリーに属します。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2008年7月]、機能: イオンチャンネル型グルタミン酸受容体。L-グルタミン酸は、中枢神経系の多くのシナプスにおいて興奮性神経伝達物質として作用します。興奮性神経伝達物質 L-グルタミン酸の結合は構造変化を引き起こし、陽イオンチャンネルの開口につながり、化学信号を電気インパルスに変換します。その後、受容体は急速に脱感作し、結合したアゴニストの存在を特徴とする一時的な不活性状態に入ります。、その他: グルタミン酸のシナプス後作用は、選択的アゴニストに応じて命名された様々な受容体によって媒介されます。この受容体は、AMPA (キスカル酸) >グルタミン酸>カイニン酸の順に結合します。、PTM: パルミトイル化。グルタミン酸刺激により脱パルミトイル化されます。Cys-603 のパルミトイル化はゴルジ体への滞留と細胞表面発現の低下につながります。対照的に、Cys-829 のパルミトイル化は細胞表面発現には影響を与えないが、刺激依存性エンドサイトーシスを制御する。、類似性: グルタミン酸依存性イオンチャンネル (TC 1.A.10) ファミリーに属する。、細胞内局在: CACNG2 との相互作用により細胞表面発現が促進される。、サブユニット: 孔形成型グルタミン酸受容体サブユニットのホモ四量体またはヘテロ四量体。二量体の二量体化により四量体が形成されることがある。C末端を介して DLG1 と相互作用する。CACNG2、HIP1、RASGRF2 と相互作用する。、組織特異性: 脳で広く発現する。、

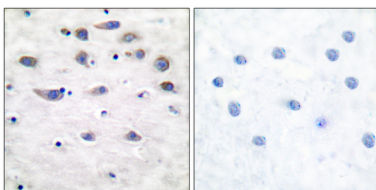
研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用、長期増強、長期うつ病、筋萎縮性側索硬化症 (ALS)

画像データ



GluR1 (リン酸化 Ser849) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



GluR1 (リン酸化 Ser849) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。